

令和 2 (2020)年度

シラバス

- 4 年次 -

科目No	FCM15-4R	授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	統合基礎臨床医学 (PT・OT)	担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分	単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必 修	1 単位	後 期 (30h)
	作業療法学				

教員の実務経験と 授業内容の関連	
---------------------	--

授業内容の要約	4年間の基礎専門科目系の総まとめとして、3専攻に共通する基礎・臨床医学系領域の知識の理解を深くかつ確実にする。基礎医学系では、人体の構造と機能、病態を、臨床医学系では生活習慣病、脳卒中、脊髄損傷、認知症、癌、喫煙、多重障害などのアプローチから診断、治療、術後リハビリなどについて、診療科ごとに検討していく。		
学修目標 到達目標	1. 基礎・臨床医学領域の関連性について理解を深めることができるようになる 2. 各基礎・臨床領域科目の知識を理解し、専門領域科目に応用できるようになる 3. 基礎および臨床医学領域の国家試験問題が理解できるようになる		
授業形態 授業の進め方	専門の担当者によるオムニバス方式で講義する。国家試験過去問題を講義資料として、傾向と対策、出題の意図を解説する。 医学用語の定義を身につけること。また、各科目の知識を関連付けて理解すること。		
授業計画		授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 生理学（坪田）/オリエンテーション、筋生理学（筋収縮エネルギー、興奮収縮連関）		該当科目の総復習も進めること	
2. 生理学（坪田）/筋生理学（筋反射と筋感覚、神経筋と運動単位）		該当科目の総復習も進めること	
3. 生理学（坪田）/神経生理学（細胞の興奮と伝達、自律神経、神経回路）		該当科目の総復習も進めること	
4. 解剖学（未定）/呼吸器系（肺区分）、循環器系（栄養吸収循環路、側副循環、リンパ管系）		該当科目の総復習も進めること	
5. 解剖学（未定）/運動器系（骨代謝、筋・関節と運動）、内分泌、泌尿器系		該当科目の総復習も進めること	
6. 解剖学（未定）/神経系（中枢神経、伝導路、末梢神経）		該当科目の総復習も進めること	
7. 病理学（中村）/炎症、感染症、腫瘍		該当科目の総復習も進めること	
8. 精神医学（永井）/国試過去問題を用いて、精神医学の全範囲を総復習する		該当科目の総復習も進めること	
9. 内科学（岡田）/循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患		該当科目の総復習も進めること	
10. 内科学（岡田）/代謝疾患、内分泌疾患、膠原病アレルギー疾患、感染症		該当科目の総復習も進めること	

11. 整形外科（未定）／慢性関節疾患、脊椎・脊髄疾患、脊髄損傷		該当科目の総復習も進めること			
12. 整形外科（未定）／骨折、外傷、末梢神経損傷		該当科目の総復習も進めること			
13. リハ概（未定）／ICF、医療安全、ノーマライゼーション		該当科目の総復習も進めること			
14. 脳神経系（未定）／脳の解剖生理、神経疾患の臨床診断と治療		該当科目の総復習も進めること			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）（坪田）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %	■その他 10 %
	基準等			定期試験は国試形式問題を出題する。範囲・問題数は、授業科目および担当回数によって算出する	授業への参加度を総合評価する
教科書		著者	タイトル		出版社
			各関連科目の教科書		
参考文献			国家試験参考書等		
履修要件等		4年前期までの全ての科目を履修済であることが望ましい			
研究室		3号館5階 第11研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～14:30 ※（会議のない週）※それ以外はメールで調整

科目No	FCM14-4R		授業形態	講義	開講年次	4年次
授業科目名	統合基礎臨床医学（ST）		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期 (30h)

教員の実務経験と授業内容の関連	
-----------------	--

授業内容の要約	4年間の基礎専門科目系の総まとめとして、3専攻に共通する基礎・臨床医学系領域の知識の理解を深くかつ確実にする。基礎医学系では、人体の構造と機能、病態を、臨床医学系では生活習慣病、脳卒中、脊髄損傷、認知症、癌、喫煙、多重障害などのアプローチから診断、治療、術後リハビリなどについて、診療科ごとに検討していく。		
学修目標 到達目標	1. 基礎・臨床医学領域の関連性について理解を深めることができるようになる 2. 各基礎・臨床領域科目の知識を理解し、専門領域科目に応用できるようになる 3. 基礎および臨床医学領域の国家試験問題が理解できるようになる		
授業形態 授業の進め方	専門の担当者によるオムニバス方式で講義する。国家試験過去問題を講義資料として、傾向と対策、出題の意図を解説する。医学用語の定義を身につけること。また、各科目の知識を関連付けて理解すること。		
授業計画		授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 生理学（坪田）／オリエンテーション、神経生理学（細胞の興奮と伝達、自律神経、神経回路）		該当科目の総復習も進めること	
2. 生理学（坪田）／代謝と酸塩基平衡		該当科目の総復習も進めること	
3. 生理学（坪田）／呼吸調節、循環調節		該当科目の総復習も進めること	
4. 解剖学（未定）／呼吸器系（咽頭、喉頭）、発生		該当科目の総復習も進めること	
5. 解剖学（未定）／神経系（中枢神経、脳地図、特殊伝導路）		該当科目の総復習も進めること	
6. 解剖学（未定）／神経系（末梢神経系、脳神経と脳幹）		該当科目の総復習も進めること	
7. 病理学（中村）／遺伝性疾患、腫瘍		該当科目の総復習も進めること	
8. 精神医学（永井）／国試過去問題を用いて、精神医学の全範囲を総復習する		該当科目の総復習も進めること	
9. 内科学（岡田）／呼吸器疾患、感染症、循環器疾患		該当科目の総復習も進めること	
10. 内科学（岡田）／肝疾患、生活習慣病、内分泌疾患		該当科目の総復習も進めること	
11. リハビリ医学（未定）／リハビリテーション評価、廃用性症候、片麻痺		該当科目の総復習も進めること	
12. リハビリ概論（未定）／ICF、医療安全、ノーマライゼーション		該当科目の総復習も進めること	
13. 脳神経系（未定）／脳の解剖生理		該当科目の総復習も進めること	

14. 脳神経系（未定）／神経疾患の臨床診断と治療				該当科目の総復習も進めること	
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（坪田）／定期試験の解答・解説					
成績評価方法	項目	□ 課題・小テスト %	□ レポート %	■ 定期試験 90 %	■ その他 10 %
	基準等			定期試験は国試形式問題を出題する。範囲・問題数は、授業科目および担当回数によって算出する	授業への参加度を総合評価する
教科書		著者	タイトル		出版社
			各関連科目の教科書		
参考文献			国家試験参考書等		
履修要件等		4 年前期までの全ての科目を履修済であることが望ましい			
研究室		3 号館 5 階 第 11 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 13：00～14：30 ※（会議のない週）※それ以外はメールで調整

科目No.	FSW07-4R, FSL07-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	医療安全管理学		担当教員	谷口 英治		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念		必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念				
教員の実務経験と授業内容の関連		臨床現場の実務経験を基に、リハビリテーション医療におけるリスクマネジメント、医療事故の発生とその対応、そして再発予防の取り組みについて講義を行う。				
授業内容の要約		リハビリテーション医療における安全とは何か、リスクマネジメント（安全管理）とは何か、を知る。				
学修目標 到達目標		1. リハビリテーション医療において安全管理はなぜ必要か、その理由は何か、が理解できる。 2. アクシデント・インシデント（医療事故）はなぜ発生するのか理解できる。 3. アクシデント・インシデント発生後の対応を理解できる。 4. 再発予防のための取り組みを理解できる。				
授業形態 授業の進め方		・配布資料、パワーポイント、板書 ・臨床実習現場に出た時に極めて重要であることを学ぶ。				
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 医療事故（アクシデント・インシデント）発生の考え方について			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
2. リハビリテーション医療における安全管理の必要性とその理由について			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
3. リハビリテーション中に起こりうる事象（出来事）、初動体制について			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
4. 急変時の対応、及び再発防止の取り組み			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
5. リハビリテーションの中止基準			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
6. リスクマネジメントのための基本的な考え方			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
7. 各種のリスクマネジメント：転倒・転落、外傷・熱傷、誤嚥、誤飲・窒息、離院・離棟、患者取り違え、接遇			配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
定 期 試 験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %		□その他 %
	基準等			定期試験のみ		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	日本リハビリテーション医学会	「リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン」 第2版		医歯薬出版		2018
参考文献			特になし			
履修要件等						

研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日	16:20～17:00
-----	-------------------	---------	-------	-------------

科目No.	FSW08-4E, FSL09-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	関係法規		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
	作業療法学			必 修		
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約		医療に専門職として従事するということは、国民の生命や健康に影響を与える仕事に就くことを意味するとともに公共性の高い職業に従事することである。したがって、様々な法律により規制されている。臨床場面において求められる基礎知識として医療、福祉の領域の法令について、理念・目的・主要な行政の理解をはかる。				
学修目標 到達目標		1. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の専門職としての法的責務が理解できる 2. 医療・福祉に関わる法の種類と立法過程が理解できる 3. 医療・福祉に関わる法の基本的内容とその特徴が理解できる				
授業形態 授業の進め方		講義形式で授業を進める。学生が自ら調べるという課題を与える。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。				
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 法律とは				法規についてまとめること		
2. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に関わる法律				学生が専攻する専門職の法律についてまとめること		
3. 医療に関わる法律 (医療法, 医師法, 保健師助産師看護師法, 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等)				それぞれの法律の要点を整理すること		
4. 社会福祉に関わる法律 社会福祉法, 虐待の防止に関わる法律				社会福祉法に記されている社会事業を整理すること		
5. 障がい者福祉施策に関わる法律 障害者基本法・障害者総合支援法等				障害者総合支援法についてまとめること		
6. 高齢者福祉領域に関わる法律 介護保険法				介護保険法についてまとめること		
7. 児童福祉に関わる法律 児童福祉法, 児童の権利に関する条約等				児童に関わる法律についてまとめること		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等					
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する					
参考文献	講義内で適宜紹介する					
履修要件等		社会保障制度, 関連職種連携論, 障害者福祉論を受講されていることが望ましい				
研究室	1 号館 4 階 第 1 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:00～13:00		

科目No.	SGR03-4E		授業形態	演習	開講年次	4 年次	
授業科目名	卒業論文		担当教員	中村 美砂 / 卒業論文担当教員			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	卒業研究		選択必修	2 単位	後 期 (30h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学						
教員の実務経験と授業内容の関連							
授業内容の要約	卒業研究発表までに取り組んできた研究内容を論文としてまとめる。論文作成までの一連のプロセスを学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 自己の主張や発見を客観的に記述できる 2. 科学的な表現能力を理解できる 3. 研究結果を論文としてまとめることができる						
授業形態 授業の進め方	担当教員のもとで研究テーマに沿って、論文を仕上げる。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		600 分以上	
論文作成のスケジュールは、個人によって異なり、かつ、進展にあわせ動的に見直しされることになる。下記に授業計画のモデルケースを示す。 1. 卒業研究発表会の振り返り 2. 卒論の章立ての決定 3. 原稿の提出とフィードバック 1 4. 原稿の提出とフィードバック 2 5. 原稿の提出とフィードバック 3 6. 原稿の提出とフィードバック 4 7. 完成稿の提出 8. 総括及びフィードバック				これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。			
成績評価方法	項目	■卒業論文 80 %	■執筆態度 20 %	□定期試験 %	□その他 %		
	基準等	主査1名（指導教員）および副査2名の計3名が、卒業論文の評価を行う。	主査1名（指導教員）が、執筆態度の評価を行う。				
教科書	著者		タイトル		出版社		発行年
	指導教員による紹介						
	各自で決定						
参考文献	白井利明他		よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房		2013 年
	大阪河崎リハビリテーション大学		卒業論文執筆要項		—		—
	文献検索等により必用な文献を得る						
履修要件等	「卒業研究」が履修済みであること。						
研究室	各担当教員 研究室			オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SRP12-4E, SOT13-4E, FSL08-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次	
授業科目名	就労支援学		担当教員	谷口 英治			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (16h)	
	作業療法学	作業療法治療学					
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念					
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、職業関連活動及び就労支援活動の評価、自立支援に向けた法的根拠、障害者に対する社会資源、制度の情報支援の利用方法（ジョブコーチの利用など）、サポートシステムの現状について講義を行う。職業適性検査などを体験する。						
授業内容の要約	人の社会生活を考えるときに最も基本的な営みである就労・職業を理解し、医学的知識に基づく障害の理解と就労における関連職種の役割を学ぶ。併せて就労支援活動の評価、法的根拠、障害者に対する社会資源、制度の情報支援の利用方法、サポートシステムの現状についての基礎知識を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 就労・職業の意味を探り、就労・職業技能の発達について理解できる 2. 職業リハビリテーションの概念について理解できる 3. 就労支援活動における関連職種の役割について述べることができる 4. 法制度、及び各領域の就労支援について理解できる						
授業形態 授業の進め方	講義を中心として、演習（検査等を含む）を適宜加える 対象者の就労・職業生活に関わる内容なので、社会情勢や出来事の事象に関心をもつこと						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 職業とは							
2. 障害者福祉における法の推移と就労：雇用支援の現状と課題				配布した資料を必ず読み、ポイントをまとめ			
3. 日本における就労支援制度				ておくこと。			
4. 職業リハビリテーションの概念と職業自立支援機関とサービス概要				また、働く意義について考えること。			
5. 障害者雇用の現状等							
6. 障害者の就労を支援するジョブコーチについて							
7. 就労支援に関わる職業評価について							
定期試験（期末レポート）							
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト % ■レポート 100 %		□定期試験 %		□その他 %	
	基準等	・障害者が就労（働く）する意義について					
教科書	著者		タイトル		出版社		発行年
参考文献	平賀昭信ほか		「作業療法技術論 3 職業関連活動」		協同医書出版		2010
	石川齊ほか		「図解 作業療法技術ガイド」		文光堂		2011
	田川義勝ほか		「社会生活行為学」		医学書院		2007
	菊池恵美子ほか		「職業リハビリテーション学」		協同医書出版		2007
履修要件等							
研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:00			他

科目No.	SRP11-4R, SRO11-4R, SRM09-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次			
授業科目名	総合リハビリテーション 地域連携論		担当教員	寺山 久美子					
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必 修	1 単位	前 期 (16h)			
	作業療法学								
	言語聴覚学								
教員の実務経験と 授業内容の関連	担当教員は、総合リハビリテーションセンター（東京都心身障害者福祉センター）にOTとしてまたリハマネージャーとして 17 年間勤務し、そこで障害児・者への多職種連携による地域支援・訪問リハ・自立支援・就労支援等を実践した。本講義はその経験を基に組み立てた。								
授業内容の要約	本講義は1～3年次に配当された「地域・予防的リハビリテーション」の総まとめ的役割を果たし、また、臨床実習地や地域包括ケアシステムの中で現在実施・模索されている当事者主体の多職種連携・リハ職の役割等を総論と4人の外来実務講師による実践編から教示する。								
学修目標 到達目標	1 総合リハ、地域連携、多職種連、連携協働マインドとは何か説明でき、4年次臨床実習の場で確認する意欲をもつことができる 2 地域包括ケアシステムの中での地域リハやリハ職の役割を説明でき、その重要性和魅力や課題を理解でき、将来の就職の選択肢にできるかも？と実感できる								
授業形態 授業の進め方	寺山による総論、外部講師4名による講義とグループディスカッション、地域担当の内部講師による「地域リハの魅力」を含むメッセージから成る								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上				
1. 総論1； 総合リハ、多職種連携、地域包括ケアシステムと地域リハの概略（寺山）			左記を「これまでのどの授業でやったかな？」と想起し、併せてその概要をノートに記しておく						
2. 総論2；地域連携・多職種連携のための共通基盤（マインドや教育等）とリハ（寺山）			左記に対して「自分の答」を考えておく						
3. 実践編1；病院から地域へ（河崎病院PT 阿部）			病院が果たす「地域連携・地域包括ケア」を調べ考える						
4. 実践編2；生活期のリハビリテーション（日本訪問リハ協会 伊藤）			左記について概要を調べておく						
5. 実践編3；通所リハ・訪問リハの最前線で（かなえるリンクOT 関本）			左記についてネットで情報をつかんでおこう						
6. 実践編4；大東市における総合リハ・地域連携のかたち（大東市役所PT 逢坂）			左記についてネットで情報をつかんでおこう						
7. 総論3；総合リハ・地域でリハ職がより活躍できるように （古井、石川、高橋）			授業中に各講師に質問ができるよう準備しておく						
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）									
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	100%	□定期試験	%	□その他	%
	基準等			「レポートの課題」は7回目の授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて独自性も含めて深く考察しているかがポイント。手書きを要求するので、文章や文字も採点対象にする					
教科書	著者		タイトル		出版社		発行年		
			適当な著作がないので特に定めない						
参考文献	日本リハビリテーション医学会監修		リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア		診断と治療社		2013年		
履修要件等	4年次臨床実習に参加可能な学生								

研究室	1号館1階 寺山研究室	オフィスアワー	毎週水曜日13:00:~14:30
-----	-------------	---------	-------------------

科目No.	SRP05-4E, SRO09-4E, SRM06-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	予防医学的 リハビリテーション概論		担当教員	武田 雅俊		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約		公衆衛生や疫学、社会医学を含めたライフスタイルの改善という観点から予防医学的リハビリテーションの概念を理解する。健康なうちから、がん対策、循環器予防、ストレス、加齢、悪い生活習慣を正しく見つけ、これらの改善策を探り、QOL の向上を図るために栄養、運動、コミュニティなどを連携させて、創生を考えていく。				
学修目標 到達目標		1. 予防医学的リハビリテーションの概念が理解できる 2. 生活習慣と認知機能の関係について理解できる 3. 第一次予防（健康増進）としての認知予備力を学ぶ 4. 健康寿命の延伸する方法について学ぶ				
授業形態 授業の進め方		参考資料を配布し、スライドと○×カードを使用して双方向の授業を行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 予防医学的リハビリテーションの概念						
2. 認知機能の加齢変化						
3. 認知予備力						
4. 認知症について						
5. 生活習慣と認知症の関係						
6. 生活習慣病の予防						
7. 認知症の予防						
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 30%	■定期試験 30%	■その他 10%	
	基準等	毎回小テストをする	レポートの提出	授業の内容を全般についての理解度を評価する	授業への参加度、および授業態度を評価。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
参考文献						
履修要件等						
研究室	1 号館 1 階 学長室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SRP13-4E, SRO13-4E, SRM07-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	障害予防概論		担当教員	古井 透		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	介護保険施行 10 年前から地方行政の理学療法士としての実務経験から、障害者の権利擁護の戦略的な思考と障害者が地域社会に認められるような専門職としての職責について、誰にでも解りやすく伝えることができる。					
授業内容の要約	同じ予防でも「傷害を予防する」「障害を予防する」この二つは似て非なるものである。ICF や国連の障害者権利条約という障害をめぐる 30 年の議論をもとに、社会が作る障壁と生物学的・バイオメカニカルな傷害発生とははっきり区別し、参加と QOL の向上を目指す筋道について考える。					
学修目標 到達目標	1. 障害に対する否定的態度の変容と共生社会の実現について自分で考えられるようになる 2. 障害をもつ人や人生の途中で障害をもった人が生活の狭小化をひきおこす過程を説明できる 3. 社会参加を計測する OUTCOME 指標について説明できる					
授業形態 授業の進め方	資料は事前配布する。2～6 回の授業では、前回の確認テストと話題の提供およびその内容への質問と解説を一コマで実施する。確認テストのあと答案用紙を授業中に赤ペンで加筆修正し、その日の午後 6 時まで事務局に提出する。ICF や権利条約について興味のある文献の予習を勧める。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 社会防衛思想から人権思想へ：らい予防法廃止とハンセン病国家賠償				配布資料からなぜ IC が重要なのかまとめる		
2. 権利条約と ICF から二次障害を考える				子供の時からの障害者の加齢を考える		
3. 生活機能を支える身体の機能構造の理解 1				配布資料で循環障害・栄養障害をまとめる		
4. 廃用症候群、脱水と排泄				「介護予防の戦略と実践」 p 135-84		
5. 認知症周辺症状の理解とうつ予防				配布資料をまとめる		
6. 社会参加の計測演習 CHART (Craig Handicap Assessment and Reporting Technique)				配布資料をまとめる		
7. 体験学習：拘縮の定義とその予防				配布資料をまとめる		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説) ポジショニングと						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	■レポート 60%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	確認テスト後の提出物の学びを評価する	「障害に対する否定的態度の変容と共生社会の実現」			
教科書	特になし					
参考文献	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Julie.K.Silve	Post-Polio Syndrome A guid for olio survivors & their families		Yale university Press	2001	
	大谷藤郎	「医の倫理と人権」		医療文化社	2005	
	山本和儀	「山本和儀の地域リハ」		年友企画	2000	
	「いつかはあなたの街のことに 原発と優生思想」制作実行委員会	いつかはあなたの街のことに 原発と優生思想		「いつかはあなたの街のことに 原発と優生思想」制作実行委員会	2016	
履修要件等	特になし					
研究室	1 号館 5 階 第 20 研究室	オフィスアワー		毎週火曜日 11：40～12：40		

科目No.	SRP14-4E, SRO12-4E, SRM08-4E			授業形態	講義	開講年次	4 年次		
授業科目名	公衆衛生学			担当教員	竹下 達也、西尾 信宏				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション			選択必修	1 単位	前 期 (16h)		
	作業療法学								
	言語聴覚学								
教員の実務経験と 授業内容の関連	竹下達也は社会医学分野での 40 年近い教員経験があり、その経験生かして公衆衛生学の講義を行う。西尾信宏も 20 年余りの公衆衛生学分野での教員経験があり、その経験を生かして公衆衛生学の講義を行う。								
授業内容の要約	公衆衛生学は、個人および集団の疾病予防と健康の保持増進を図るための方法論に関する学問分野である。個人および集団の健康に影響を与える諸要因を明らかにするための疫学的研究方法について解説する。さらに各論として、ライフスタイルと健康、生活習慣病の遺伝・環境要因、発がん予防等について述べる。								
学修目標 到達目標	1. 集団における健康事象の頻度と分布を記述する方法について説明することができる 2. 健康に影響を与える諸要因を解析する方法を説明することができる 3. 疾病予防、健康増進の意義と方法を説明することができる 4. がんや循環器疾患などの重要な健康事象の要因と予防方法について説明することができる								
授業形態 授業の進め方	パワーポイントを用いて授業を行う。下記教科書以外にも、適宜、教科書、参考書を紹介するので、学習に役立てていただきたい。								
授業計画					授業時間外に必要な学修		30 分以上		
1. 公衆衛生学総論 (公衆衛生学・予防医学の歴史と意義) (教科書 p1～37)					復習：公衆衛生の歴史についてノートにまとめること				
2. 疫学方法論 (疫学指標、記述疫学) (教科書 p48～74)					復習：疫学指標等についてノートにまとめること				
3. 疫学方法論 (疫学研究のデザイン、分析疫学) (教科書 p64～80)					復習：分析疫学についてノートにまとめること				
4. 疫学方法論 (疫学的因果関係、介入研究) (教科書 p66～87, 83～85)					復習：介入研究等についてノートにまとめること				
5. ライフスタイルと健康 (生活習慣と循環器疾患) (教科書 p146～157)					復習：循環器疾患についてノートにまとめること				
6. ライフスタイルと健康 (生活習慣とがん) (教科書 p141～146)					復習：がんの危険要因についてノートにまとめること				
7. 疫学方法論 (スクリーニング) (教科書 p85～88)					復習：スクリーニングについてノートにまとめること				
8. 環境要因と健康 (石綿によるじん肺などの事例紹介) (教科書 p263～267)					復習：石綿・じん肺についてノートにまとめること				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	100 %	□定期試験	%	□その他	%
	基準等				課題は、第7回の授業で提示する。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。				
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	岸玲子ら	「NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第4 版」			南江堂		2018		
参考文献	厚生労働統計協会	「国民衛生の動向」2019/2020 年版			厚生統計協会		2019		
履修要件等									
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。				

科目No.	SBP10-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	理学療法マネジメント		担当教員	畑中 良太、村西 壽祥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		選択必修	1 単位	後 期（16h）
教員の実務経験と授業内容の関連	病院、職能団体、養成校のマネジメント経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法マネジメントについての考え方について講義する。					
授業内容の要約	理学療法サービスを提供するための、さまざまなマネジメント（管理）を学ぶ					
学修目標 到達目標	1. 臨床現場での管理や運営について理解できる 2. 各種、記録・報告の意義を理解できる 3. 保険制度とその報酬を理解できる					
授業形態 授業の進め方	講義内容の概略を講義し、グループディスカッションを行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 管理運営				課題：労務管理について		
2. 良質な医療の提供				課題：コミュニケーション・スキル		
3. 記録方法とデータの管理				課題：診療記録について		
4. 社会保障と保険制度				課題：診療報酬について		
5. 身分法と職能団体				課題：理学療法士及び作業療法士法		
6. 職域の拡大				課題：起業について		
7. 理学療法士の未来像				課題：理学療法士に求められる役割		
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 100%	□レポート %	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	各講義中に講義内容をまとめてもらい理解度を確認する				
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	細田多穂 ほか	「理学療法政策学・管理学テキスト」		南江堂		2018
参考文献						
履修要件等						
研究室	3 号館 2 階 第 29 研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT20-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	統合理学療法学		担当教員	村西 壽祥 / 理学療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	各領域において理学療法士として実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	これまでに学習した理学療法専門領域において、国家試験に必要な知識と考え方を身につける。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法国家試験合格レベルにおける知識が習得できる 2. 理学療法士として実際に業務することができるための理学療法学分野の内容を習得できる					
授業形態 授業の進め方	理学療法学専攻教員および外部講師(理学療法士)によるオムニバス形式にて進める					
授業計画			授業時間外に必要な学修		120 分以上	
1. 2 切断/義肢・装具			各分野全般を計画的に行い、理解が不十分な分野は担当教員の指導を受けながら学習を行っていくこと			
3. 4 理学療法評価法①						
5. 6 理学療法評価法②						
7. 8 運動療法総論・臨床運動学・生体力学						
9. 10 物理療法						
11. 12 日常生活活動						
13. 14 生活環境論・地域理学療法・理学療法概論						
15. 16 運動器系理学療法学①						
17. 18 運動器系理学療法学②						
19. 20 呼吸循環・代謝系理学療法						
21. 22 神経系理学療法学(脳血管障害/脊髄損傷)						
23. 24 神経系理学療法学(小児/発達障害)						
25. 26 神経筋疾患						
27. 28 【特別講義】臨床心理学						
29. 30 【特別講義】精神医学						
単 位 認 定 試 験						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%		□その他 %
	基準等			2回の定期試験を行い、2回とも6割以上の点数で合格とする		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献		「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 理学療法基礎編」		医歯薬出版		2020
		「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 理学療法疾患別編」		医歯薬出版		2020
		「国試の達人 理学療法編」		アイペック		2020
履修要件等	4 年次前期までに履修すべき単位を習得していること					
研究室	1 号館 5 階 第 21 研究室/各教員研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12 : 10～13 : 00/各教員毎		

科目No.	SPT16-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	理学療法技術論		担当教員	小峯 武陸		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	急性期から在宅リハまでに経験を活かし、各ステージに必要な知識と効果的な運動療法を伝える。					
授業内容の要約	各種疾患によって生じた障害構造を理解し、解剖学や生理学などの基礎医学並びに生体工学（物理学・バイオメカニクスなど）などに基づいて、理学療法の思考や技術を学習する。					
学修目標 到達目標	1. 各種疾患（障害）毎の障害構造を理解ができる 2. それらに対する理学療法の適応と禁忌ならびに注意点を理解し、基本的な評価や理学療法を実践できる					
授業形態 授業の進め方	講義および演習					
授業計画			授業時間外に必要な学修		90 分以上	
1. 各期のリハビリテーションの総論（小峯）			今回の復習			
2. 急性期リハビリテーション（小峯）			今回の復習			
3. 回復期リハビリテーション（小峯）			今回の復習			
4. 維持期リハビリテーション（小峯）			今回の復習			
5. クラインフォォーゲルバッハⅠ（小峯）			今回の復習			
6. クラインフォォーゲルバッハⅡ（小峯）			今回の復習			
7. 神経筋促通法（PNFⅠ）（小峯）			今回の復習			
8. 神経筋促通法（PNFⅡ）（小峯）			今回の復習			
9. レッドコードエクササイズⅠ（小峯）			今回の復習			
10. レッドコードエクササイズⅡ（小峯）			今回の復習			
11. NDT アプローチⅠ（畑中）			今回の復習			
12. NDT アプローチⅡ（畑中）			今回の復習			
13. 課題指向型アプローチⅠ（畑中）			今回の復習			
14. 課題指向型アプローチⅡ（畑中）			今回の復習			
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 80 %	□その他 %
	基準等	授業中に実施した内容の理解度を課題・小テストにて評価する			授業中に実践した理学療法技術の習得度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	動ける服装で受講してください。					
研究室	1 号館 4 階 第 3 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12：10～12：50		

科目No.	SPT17-4E		授業形態	演習	開講年次	4 年次
授業科目名	理学療法学 P B L		担当教員	酒井 桂太・理学療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	総合臨床実習Ⅱに向けて問題解決型学習の方法論を取り入れ、ケーススタディを通して、各教員がチューターとしてつき、小グループごとに理学療法アプローチについて学習する。					
学修目標 到達目標	1. 症例紹介のプロフィールからリスク管理を踏まえて、理学療法評価計画を立てられる 2. 症例の全体像、ADL 状況、動作観察の情報から、障害を予想し検査測定項目を選択できる 3. これまでのデータと検査・測定結果から症例の障害構造について理解する 4. 評価内容から理学療法プログラムを立案できる					
授業形態 授業の進め方	各グループのチューターとしての各教員が指導する。グループワークになるので一人一人が協力して取り組んでほしい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 症例紹介のプロフィールに対するグループ討論				症例の基礎疾患について復習する		
2. 理学療法評価計画の発表						
3. 症例の全体像、ADL 状況、動作観察に対するグループ討論				適応となる検査測定について復習する		
4. 検査測定項目の発表						
5. 検査・測定結果に対するグループ討論				ICF および ICIDH について復習する		
6. 症例の障害構造についての発表						
7. 評価内容に対するグループディスカッション				障害別理学療法治療学について復習する		
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト) 症例報告レポート提出						
8. 理学療法プログラムについての発表						
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 50%	☑レポート 40%	□定期試験 %		☑その他 10%
	基準等	毎回の課題内容	症例報告レポート			授業態度
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特になし					
参考文献	嶋田智明	障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考		文光堂		2007
履修要件等	3 年次までの専門基礎科目・専門科目が履修済みであることが望ましい					
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14 : 40～16 : 10		

科目No.	SPT18-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	精神科理学療法学		担当教員	小峯 武陸		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	急性期医療や老人保健施設ならびに精神科病院での実務を活かして、理学療法で必要な精神領域の理学療法について述べていく。					
授業内容の要約	リハビリテーションに携わる理学療法士が必要な精神医学並びに臨床心理学の基礎的知識を理解し、精神領域理学療法の臨床的意義を学ぶ					
学修目標 到達目標	1. 精神医学の基礎知識を理解し臨床において重視される症状学を理解する 2. 理学療法士国家試験の過去問題を理解し解答できる					
授業形態 授業の進め方	配布資料並びにプレゼンテーションを中心に進行する。みなさんが臨床実習等で知りえた症例と比較検討できるようにし、国家試験問題に対しても理解できるようになる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 精神総論 リハビリテーション医学と理学療法に関連する精神医学の基礎知識理学療法士国家試験の傾向と対策			指定された内容を予め調べておくこと			
2. 精神総論 症状学など			指定された内容を予め調べておくこと			
3. 精神領域各論 統合失調症 など			指定された内容を予め調べておくこと			
4. 精神領域各論 双極性障害 など			指定された内容を予め調べておくこと			
5. 精神領域各論 統合気分障害 認知症など			指定された内容を予め調べておくこと			
6. 精神領域各論 せん妄 依存症 など			指定された内容を予め調べておくこと			
7. 精神領域各論 てんかん 薬物療法など			指定された内容を予め調べておくこと			
定 期 試 験 (期 末 レ ポ ー ト)						
8. 演習問題、総括 (フィードバック)			指定された内容を予め調べておくこと			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	■レポート %	■定期試験 60%	■その他 %	
	基準等	理学療法士国家試験過去問題に関連する内容である。		定期試験を実施する。理学療法士国家試験過去問題に準じた問題。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
参考文献	長嶺敬彦	抗精神病薬の「身体副作用」がわかる				
	平川純一他	精神科・身体合併症のリハビリテーション		共同医書出版社		2015 年
履修要件等						
研究室			オフィスアワー			

科目No.	SPT19-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	産業理学療法学		担当教員	古井 透		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	後 期 (16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	介護保険施行 10 年前から地方行政の理学療法士としての実務経験から、予防的理学療法の戦略的な思考と地域社会に認められるような専門職としてのアイデンティティを、誰にでも解りやすく伝えることができる。					
授業内容の要約	働く人々の安全と健康を守るのは国民的課題である。しかし、年間 60 万人もの労働者がなんらかの理由で被災し、死者も 2000 人を超えた。環境の変化や情報化・サービス経済化にともない、人々の働き方も変化し年齢や性別を問わず就業形態の多様化が進行している。本講義では 2 1 世紀を担う人々が安全に働き続けられるよう貢献できる産業理学療法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 産業理学療法について語れるようになる。 2. Ergonomics の視点を身につける。 3. 疲労や作業姿勢の評価について知り、与えられた資料を使って評価を実施できる。 4. 産業理学療法介入の効果について考えられるようになる。					
授業形態 授業の進め方	コンピューターを用いた演習と講義					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 産業理学療法の未来とわが国の理学療法におけるトピック				レジュメに即した課題の提出		
2. Ergonomics と Anthropometrics						
3. Lifting technique				レジュメに即した課題の提出		
4 観察に基づく作業姿勢評価						
5. OWAS (Ovako Working Posture Analysing System)” の計算				レジュメに即した課題の提出		
6. Ovako 式作業姿勢分析システムソフト JOWAS のデモ				レジュメに即した課題の提出		
7. Ovako 式作業姿勢分析システムソフト JOWAS による解析				レジュメに即した課題の提出		
定期試験 (期 末 レ ポ ー ト)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 20%	□レポート %	☑定期試験 80 %	□その他 %	
	基準等					
参考文献	著者	タイトル		出版社		発行年
	Kwren jacobs	Ergonomics for therapist		Mosby		2007
	Jackson J, et al.	Working postures and physiotherapy students.		Physiotherapy		1994, 80; 432-436.
	Leyshon RT and LE Shaw	” Using ICF as a conceptual framework to guide ergonomic intervention in occupational rehabilitation”		Work		31 (2008) 47-61
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 20 研究室		オフィスアワー	毎週○曜日 ○○:○○～○○:○○		

科目No.	SPT09-4E		授業形態	実習	開講年次	4 年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション		担当教員	中尾英俊		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	スポーツ傷害に対する理学療法の実践方法について、臨床およびスポーツ現場でのサポート経験を要した教員にて講義と実技を行う。また、全国大会や国際大会でのサポート活動内容も紹介する。					
授業内容の要約	スポーツ特有の傷害(外傷と障害)を理解し、適切なリハビリテーションの方針を知るとともに、スポーツ外傷・障害の発生機序を理解することで健康増進における理学療法のあり方を考察する。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法士が関与していたスポーツ領域を説明する 2. 健康と運動について説明する 3. 損傷部位から受傷機転を推論できる 4. パフォーマンスを向上させるための方法を列挙できる 5. 障害構造から適切なトレーニング方法を選択できる					
授業形態 授業の進め方	講義は、教科書や講義内で配布する資料を中心に解説し、必要であれば実技を行うので、実技が可能な服装で出席すること。トレーニングや運動療法の手技を理解するため、理論背景の解説と実技練習を取り入れる。実技は、自分たちの自習時間を使って練習して体得するように努力すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 理学療法とスポーツリハビリテーション			運動学（力学）を復習しておくこと。			
2. 投球動作：バイオメカニクス			授業内容を復習し理解する			
3. 投球障害の病態運動学と障害論			授業内容を復習し理解する			
4. 投球障害の理学療法			実技の練習を行う			
5. 投球障害に対するアスレティック・リハビリテーション			授業内容を復習し理解する			
6. 下肢のスポーツ傷害(外傷と障害)の概要			授業内容を復習し理解する			
7. 下肢傷害に対する理学療法について			授業内容を復習し理解する			
8. 下肢スポーツ傷害に対するアスレティック・リハビリテーション			授業内容を復習し理解する			
9. テーピングの理論と目的、適応			授業内容を復習し理解する			
10. テーピング解説			実技の練習を行う			
11. テーピングのデモンストレーションと実技（足部・足関節）			実技の練習を行う			
12. テーピングのデモンストレーションと実技（膝関節、肩関節）			実技の練習を行う			
13. インソールの理論とスポーツ領域での役割			実技の練習を行う			
14. インソール適応のための評価手技(実技)、 スポーツ傷害を考慮し			実技の練習を行う			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 100%	□レポート	%	□定期試験	%
	基準等	講義中の課題は、理学療法や、トレーニングの実技、テーピング実技に係るテストを行う				
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
参考文献	臨床スポーツ医学編集委員会	第2版 「スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド」		文光堂		2015

履修要件等			
研究室	1 号館 5 階 共同研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～13:00

科目No.	SRP03-4E		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	ヘルスプロモーション論		担当教員	古井 透		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	介護保険施行 10 年前から地方行政の理学療法士としての実務経験から、公衆衛生と保健活動の戦略的な思考とヘルスプロモーションが地域社会に認められるような専門職としてのアイデンティティを、誰にでも解りやすく伝えることができる。					
授業内容の要約	世界的に見直されつつある公衆衛生と保健活動の戦略的な思考と科学的な実践活動の展開について概観し、予防リハビリテーション分野に必要な知識や介入方法を学び、ヘルスプロモーション分野においてリーダーとなれる力を養う。					
学修目標 到達目標	1. ヘルスプロモーションのキーワードを説明できる 2. 人の行動変容のプロセスを知り、臨床場面でその応用ができる 3. 運動習慣の定着・認知症予防・うつ予防などの促進プログラムを計画できる					
授業形態 授業の進め方	具体的な課題に取り組み、その経過や成果を発表し、討議を通じ学習する。演習を中心にした学びとその表出によって、ヘルスプロモーション活動への理解と定着をはかる。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 話題提供「機能訓練事業における、いわゆる『卒業』問題」				臨床実習担当ケースを想起し予後予測する		
2. 「ヘルスプロモーションのキーワードを知る」				少なくとも 10 程度のキーワードを覚える		
3. WHO オタワ憲章にいたる歴史：ヘルスプロモーションの起源				歴史経過をスライド 1 枚程度にまとめる		
4. 学習理論と行動変容：人の行動に関する心理学的理解の変遷				各理論の特徴を表にまとめる		
5. 行動変容ステージ理論と行動変容の計測（演習 1）				ステージ理論を身近な人に応用する		
6. 行動変容ステージ理論と行動変容の計測（演習 2）				行動変容を記録する		
7. 実現可能な自己管理計画を立案する				1 週間の自分の生活をログしてくる		
定 期 試 験（期 末 レ ポ ー ト）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	□レポート %	■定期試験 60 %	□その他 %	
	基準等	実施した内容の理解度を提出物にて評価する		定期試験（レポート）にて講義全般の理解度を評価する		
教科書	指定しない					
参考文献	WHO 欧州地域事務局	ヘルスプロモーション：WHO オタワ憲章：（訳）島内憲夫		垣内出版	1995	
	ベス・H・マーカス、リアン・H・フォーサイス	行動科学を活かした身体活動・運動支援―活動的なライフスタイルへの動機付け		大修館書店	2006	
	日本ヘルスプロモーション理学療法学会	「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション」		南江堂	2014	
履修要件等	なし					
研究室	1 号館 5 階 第 2 0 研究室		オフィスアワー	毎週○曜日 ○○:○○～○○:○○		

科目No.	SCP09-4R			授業形態	実習	開講年次	4 年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅱ（P T）			担当教員	酒井 桂太・理学療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	理学療法学	臨床実習			必 修	8 単位	前 期 (360h) 8 週間
教員の実務経験と 授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が指導にあたる。						
授業内容の要約	臨床実習施設において臨床実習指導者の指導監督の下、診療チームの一員となり、理学療法評価から理学療法までの実際を診療参加型臨床実習として行う。 臨床総合実習Ⅱでは、臨床総合実習Ⅰで実施した内容を踏まえながら、さまざまな障害像に対して臨床実習指導者の助言・指導・援助の下に理学療法を実施し、その経験を通して各障害に対する理学療法の理解を深めることができる。						
学修目標 到達目標	1. 理学療法のプロセスを理解することができる。 2. 指導・助言の下で、基本的な理学療法評価・理学療法を実施できる。 3. 症例に応じた問題点の抽出や臨床的推論を理解し、理学療法プログラムの立案ができる。 4. 指導・助言の下で、理学療法の効果判定を理解できる。						
授業形態 授業の進め方	臨床総合実習Ⅰで気づけなかった事や取り組んでできなかった事を踏まえ、実習の手引きを熟読すること。最終の臨床実習なので自ら積極的に実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分程度	
・8週にわたり、病院で臨床総合実習を実施する ・実習後にセミナーにて症例発表会を行う				毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。 実習報告会用のレジメを A3 用紙 1 枚にまとめる。実習に関する基礎知識を自己学習する。			
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %		☐ レポート %		☐ 定期試験 %	
	基準等					☒ その他 100%	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
		「理学療法学専攻：臨床実習の手引き 第5版」					
参考文献	特に指定しない						
履修要件等	実習要件 3) を満たしていること						
研究室	1 号館 1 階 理学療法専攻長室			オフィスアワー	毎週月曜日 14：40～16：10		

科目No.	SOT15-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	統合作業療法学		担当教員	上島 健 (代表)、作業療法学専任教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	4 年間の集大成として、これまで学習してきた作業療法学に関する総合的な理解を深める。作業療法学専攻教員が中心となり、国家試験に準拠した知識面の整理を行い、Active Learning にて理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 作業療法国家試験出題分野(専門・専門基礎分野)について、国家試験出題レベルの解釈ができる 2. 国家試験の出題パターンを理解し、過去問題に関連する知識を統合することができる 3. 事前学習を前提に演習問題を解き、国家試験レベルの応用力を修得することができる					
授業形態 授業の進め方	・オムニバス形式で実施し、作業療法学専攻教員が各専門・専門基礎分野の解説を行う ・広範囲にわたる事前学習を前提とし、作業療法士国家試験対策の講義・演習を中心に行う ・「個人学習」、「グループ学習」、「自主勉強会」などを計画的に Active Learning を進めること					
授業計画				授業時間外に必要な学修	90 分以上	
1. ガイダンス(単位認定試験に関する説明、国家試験対策学習について)【上島】				指定教科書を準備する		
2. I. 基礎作業療法学 (作業療法の基礎、範囲、作業療法学の基礎)【水野】				授業範囲の国試過去問を復習する		
3. II. 作業療法評価学 その1 (目的、時期と手段)【田崎】				授業範囲の国試過去問を復習する		
4. II. 作業療法評価学 その2 (ICF、福祉用具、義肢、装具)【谷口】				授業範囲の国試過去問を復習する		
5. II. 作業療法評価学 その3 (疾患、障害、保健、予防)【未定】				授業範囲の国試過去問を復習する		
6. III. 作業療法治療学 その1 (基礎、心身機能、身体構造)【武井】				授業範囲の国試過去問を復習する		
7. III. 作業療法治療学 その2 (活動、参加、背景因子等、福祉用具)【嶋野】				授業範囲の国試過去問を復習する		
8. III. 作業療法治療学 その3 (義肢、装具、疾患)【南】				授業範囲の国試過去問を復習する		
9. III. 作業療法治療学 その4 (障害、保健、予防)【未定】				授業範囲の国試過去問を復習する		
10. III. 作業療法治療学 その4【義肢装具関連 特別講師：田丸 佳希】				授業範囲の国試過去問を復習する		
11. III. 作業療法治療学 その5【発達関連評価と治療 特別講師：丹葉 寛之】				授業範囲の国試過去問を復習する		
12. IV. 地域作業療法学 その1 (基礎)【石川】				授業範囲の国試過去問を復習する		
13. IV. 地域作業療法学 その2 (評価と支援)【未定】				授業範囲の国試過去問を復習する		
14. V. 臨床実習 (実習前準備、実習実施内容)【嶋野】				授業範囲の国試過去問を復習する		
定 期 試 験 (単位認定試験として別に定める日程で実施する)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)【上島】				試験内容の復習を行うこと		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					定期試験は単位認定試験1～3として3回実施し、そのうち2回の試験で60%以上の得点を合格とする。試験判定基準、授業日時、担当教員等は初講日に説明する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	医歯薬出版編集	第 51～55 回 理学療法士・作業療法士国家試験問題 解答と解説 〈2020〉 CD-ROM 付		医歯薬出版		2019
参考文献	厚生労働省ホームページ 平成 28 年版 理学療法士作業療法士国家試験出題基準 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000058636.html					
履修要件等	4 年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目の履修が望ましい					

研究室	1号館5階 第14研究室（上島）	オフィスアワー	毎週木曜日 14:40～16:10
-----	------------------	---------	-------------------

科目No.	SOT14-4E		授業形態	演習	開講年次	4 年次
授業科目名	作業療法学 P B L		担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		選択必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、リハビリテーションに関係する事象や症例をテーマとして、そこに内在する問題を抽出して、情報を集め、議論し解決までの過程を推論、考察し、自己を表現し、他学生に対して説明する能力を身に付けるためのアクティブ・ラーニングを行う。					
授業内容の要約	問題解決型学習方法論を取り入れ、心身障害領域の症例検討を中心とした臨床実践基礎能力を学修する（知識・技術の再確認）					
学修目標 到達目標	1. 症例のプロフィールから評価計画が立案できる 2. 症例の全体像から障害を予測し適切な評価項目が選択できる 3. 統合解釈ができる 4. 治療計画・治療プログラムが立案できる					
授業形態 授業の進め方	① クラス内をグループ別化し、各グループ間でグループディスカッションを通して 1 症例を検討する ② 検討した内容をグループ内で発表する ③ 全体発表する					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 症例紹介と各プロフィールに対するグループディスカッション						
2. 症例の障害構造について発表と作業療法評価計画の発表				臨床総合実習Ⅰで担当した症例報告書を基に、		
3. 評価項目の選定と評価結果に対するグループディスカッション				再度復習し、架空の症例の評価、治療計画、		
4. 各グループ間で評価結果の統合解釈ができる				治療実施のシミュレーションを準備しておく		
5. 治療計画、治療プログラムに対するグループディスカッション				こと。		
6. 治療計画、治療プログラムを立案できる				また、討論と発表への準備をしておくこと		
7. 各グループ全体発表会						
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説） 【症例】 1. 統合失調症（谷口） 2. 認知症（石川） 3. 脳血管障害（上島） 4. 未定（南）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	80 %	□定期試験 %
	基準等			症例検討から評価・治療計画プログラム立案に至る過程をレポートにまとめる。		■その他 20 %
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		随時紹介				
参考文献						

履修要件等	症例報告書の作成に精通しておくこと		
研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:00

科目No.	SCP09-4R			授業形態	実習	開講年次	4 年次
授業科目名	臨床総合実習Ⅱ（OT）			担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	作業療法学	臨床実習			必 修	9 単位	前 期 (405h) 9 週間
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、実習学生が主体的に対象者の状態像に関する評価に対し、臨床実習指導者の監督・指導を受けながら、治療の実践並びに治療の効果判定を模倣し、さらに実施できているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導する。また、学生が診療の一員として加わり、複数の症例に対し臨床評価から治療の実施の経験を通じて学ぶ診療参加型実習について説明し指導する。						
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設にて臨床実習を実施する。臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し作業療法士としての基本的な役割を実践する。						
学修目標 到達目標	1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割を理解することができる 2. 対象者（児）の評価法を修得することができる 3. 治療計画を立案し、治療を実施することができる 4. 治療の結果を踏まえ、予後について考察することができる						
授業形態 授業の進め方	・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 ・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上	
・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野 9 週間の実習を実施する。 ・対象者（児）の評価を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し、作業療法士としての基本的な役割を実践経験する。 ・治療結果を踏まえ再評価を行い、新たな治療計画の立案とともに予後予測についても考察する				臨床総合実習Ⅰの結果から得た課題を解決し、時期臨床実習への準備をしっかりと整えておくこと			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	%
	基準等					■その他 100 % ① 「臨床総合実習Ⅱ」評定の結果 ② 臨床実習出席日数 ③ 実習内容（レジュメ、実習ノート、実習態度等） ④ セミナーの参加状況から総合的に評価する	
教科書	著者		タイトル		出版社		発行年
	臨床実習委員会編		「作業療法学専攻：実習の手引き」 第 4 版		大阪河崎リハビリテーション大学		2017

参考文献				
履修要件等				
研究室	各実習担当教員 研究室	オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照	

科目No.	SDS05-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	言語聴覚障害学総論		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必 修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	担当する講義内容に相当する臨床について職場での勤務を通じて経験のある各教員が講義を行う。					
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関の臨床現場において、言語聴覚・摂食嚥下リハビリテーションを行う際に、必要な医学、薬理学、栄養学、看護学、歯科学、理学療法学、作業療法学、臨床心理学、工学、教育制度・社会保障制度等関連領域に関する知識・技能の再学習と整理統合を行い、対象児・者に対する多面的な理解と支援が理論の裏付けを伴った実践ができることを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 関連職種の職務内容、教育制度、社会福祉制度とその法的基盤について再学習する 2. 臨床現場で提供される関連領域からの情報を理解し、対象児・者へのアプローチに活用することが可能となる。 3. 対象児者の罹病期間やライフ・ステージに即した評価訓練・環境調整・職種連携が可能となる。					
授業形態 授業の進め方	画像解析のディスカッション、実技演習、レポート作成等を通じアクティブラーニングをめざす。					
授業計画					授業時間外に 必要な学修	30 分以上
1. X線 CT、MRI、fMRI、PET と臨床症状（マニュアル p 180 ～ 333）【岡田】					復習しノートにまとめる。	
2. 脳波(EEG)、筋電図(EMG)、心電図(ECG)と臨床症状（テキスト p 46 ～ 55）【岡田】					復習しノートにまとめる。	
3. バイタル・サイン、主要な薬剤の影響、診療情報記録【岡田】（資料配布）					復習しノートにまとめる。	
4. 対象児・者の社会的支援：教育制度、言語聴覚療法管理学【高橋】（資料配布）					復習しノートにまとめる。	
5. STに必要なPTの知識：呼吸、排痰、移乗等【久利】（資料配布）					復習しノートにまとめる。	
6. STに必要なOTの知識：利き手交換、片手動作、使用手・補助手 書字、食事動作等【南】（資料配布）					復習しノートにまとめる。	
7. 社会保障制度【野村】（資料配布）					復習しノートにまとめる。	
8. 医療保険制度・介護保険制度【野村】（資料配布）					復習しノートにまとめる。	
9. ふりかえり					復習しノートにまとめる。	
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	100 %	□定期試験
	基準等	学んだ知識を臨床場面でどのように活かせるかを問い、内容を評価する。				□その他
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	小寺富子監修	言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第3版			協同医書出版	2014
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」			医歯薬出版	2018
参考文献	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」			医学書院	2010
履修要件等	4 年生前期までのすべての科目が履修済みであることが望ましい。					
研究室	1 号館 5 階第 16 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9:30～10:30		

科目No.	SDS06-4R		授業形態	講義	開講年次	4 年次
授業科目名	統合言語聴覚学		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必 修	1 単位	後 期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	各担当分野で臨床経験のある教員が、その経験を生かして講義し 4 年間の学修内容のまとめをする。					
授業内容の要約	これまでに学習した専門基礎分野と専門分野を統合して、言語聴覚障害学の応用を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. これまでに学習したことを確実に身につける。 2. 専門用語や障害発生機序など、人に平易な言葉で説明できる力を身につける。 3. 各分野との関連性を理解して、応用力を身につける。					
授業形態 授業の進め方	座学が中心の講義形式となるが、グループ学習の成果も求める場合がある。 小テストをして、学習の定着度を測る。 その状態により補講を行う場合がある。 理解の状況により、30 時間以上の講義となる可能性は高い。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		5 時間以上
1. 医学総論・生理・病理・精神医学【専門基礎教員】(テキスト p1～44)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
2. 内科学・リハビリテーション医学【医師】(テキ p45～55)(テキ p80～85)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
3. 耳鼻咽喉科学(鼻・口腔咽喉頭頸部科学) 形成外科学・臨床歯科学 呼吸器系医学【和田・高橋】(テキ p86～102・p124～132・p133～144)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
4. 耳鼻咽喉科学(耳科学)・聴覚系医学【馬屋原】(テキスト p86～102)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
5. 臨床神経学・神経系医学【医師】(テキスト p103～133)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
6. 小児科学・口蓋裂・構音障害【木村・高橋】(テキ p56～69)(テキ p124～132)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
7. 音響学・聴覚心理学【馬屋原】(テキスト p203～218)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
8. 認知・学習・臨床心理・心理測定法【木村・芦塚】(テキスト p145～172)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
9. 生涯発達心理学【木村】(テキスト p160～167)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
10. 言語学・音声学・言語発達学【高橋】(テキスト p173～202)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
11. 社会保障制度・医療福祉教育関係法規【野村】(テキスト p2～7)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
12. 失語・高次脳機能障害学【芦塚】(テキスト p259～290)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
13. 言語発達障害学【木村・高橋】(テキスト p291～318)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
14. 音声障害・構音障害・嚥下障害【和田】(テキ p366～395)(テキ p404～419)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
15. 聴覚障害【馬屋原】(テキスト p319～364)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
定期テスト						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %		□その他
	基準等			試験は3回実施。単位取得には6割以上の点数を2回取る事が必要		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	平野哲雄他編著	「言語聴覚療法 臨床マニュアル 第3版」		協同医書出版		2014
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版		2018
参考文献	伊藤元信・笹沼澄子編	「言語治療マニュアル」		医歯薬出版		2002
履修要件等	4 年生前期までのすべての科目が履修済みであることが望ましい。					
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9：30～10:30		

科目No.	SDS04-4E			授業形態	演習	開講年次	4 年次
授業科目名	言語聴覚学 P B L			担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論			選択必修	1 単位	前 期 (16h)
教員の実務経験と 授業内容の関連							
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関における言語聴覚・摂食嚥下リハビリテーションの対象児・者の事例を通して問題抽出、情報収集、評価・訓練・環境調整・職種連携の計画立案等、言語聴覚士として必要な介入手法を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 種々の言語聴覚障害、発達障害、高次脳機能障害、摂食嚥下障害について再学習する。 2. 言語聴覚障害、発達障害、高次脳機能障害、摂食嚥下障害と関連等の疾患及び治療を再学習する。 3. 社会保障制度、関連職種の職務内容とその法的基盤について再学習する。						
授業形態 授業の進め方	情報収集演習、症例の CT・MRI・ビデオ等の解析、検査演習、訓練演習、グループ討論、発表、小テスト等を実施する。						
授業計画					授業時間外に必要な学修		30 分以上
1. 事例：成人失語症・高次脳機能障害【芦塚】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
2. 事例：成人聴覚障害【馬屋原】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
3. 事例：成人聴覚障害【馬屋原】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
4. 事例：小児発達障害（肢体不自由、AAC）【木村】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
5. 事例：小児発達障害（知的障害、自閉症）【高橋】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
6. 事例：小児発達障害（学習障害、高機能自閉症）【高橋】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
7. 事例：機能性・器質性構音障害【高橋】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
8. 事例：音声障害【言語聴覚学専攻教員】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
9. 運動障害性構音障害、摂食嚥下障害【言語聴覚学専攻教員】					講義内容を復習しノートにまとめる。		
定期試験							
10. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					講義内容を復習する。		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					各分野担当教員が講義内容に沿った問題を出題し回答を評価する	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
	小寺富子 監修	言語聴覚療法臨床マニュアル改訂 3 版			協同医書出版		2014
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第 3 版」			医歯薬出版		2018
参考文献	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」			医学書院		2010
履修要件等	3 年生までの全ての専門科目が履修済みであることが望ましい。						
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室			オフィスアワー	毎週水曜日 9：30～10:30		

科目No.	SCP09-4R			授業形態	実習	開講年次	4 年次
授業科目名	臨床総合実習			担当教員	木村 秀生		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習			必 修	8 単位	前 期 (320h) 8 週間
教員の実務経験と 授業内容の関連	臨床現場で実習生指導経験のある教員が、実習先の指導者と連携をとりながら学生をフォローする。						
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を理解し、対象児・者のニーズ把握とその解決に必要な支援の方法を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 評価結果から長期・短期の各目標を設定し実習指導者の下、計画に基いた訓練を施行できる。 2. 再評価を行い、結果に応じた訓練計画の再立案ができる。 3. 日々の臨床、カンファレンスにおいて他の言語聴覚士及び関連職種と連携し情報共有ができる。 4. 実習指導者の下、対象児・者とその周囲に対して指導・説明が行える。 5. 実習施設の組織や言語聴覚療法部門の運営・管理について学ぶ。						
授業形態 授業の進め方	・実習前指導では講義、情報検索、討論、ロールプレイ、演習、必要書類作成等を行う。 実習日誌は実習中毎日作成・提出し実習指導者の校閲・指導を受ける。実習終了時に一括して大学へ提出する。実習終了時は症例報告、実習報告レポート等を作成し実習指導者と大学に提出する。 大学においてパワーポイントを作成し、実習報告会で発表する。 ・実習要件 3) (履修の手引き参照) を満たさなければ履修できない。4 年間の学習のまとめと今後の臨床の礎とする。欠席が 1/5 を超えた者は単位を取得できない。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		90 分以上 / 週	
【実習前指導】 ・社会人としての心得、対象児・者に対する心得 ・医療・介護・福祉・教育機関における心得 ・情報収集演習、症例ビデオの解析、検査演習、グループ演習 【臨床総合実習】 ・評価結果から実習指導者の下、計画に基いた訓練を行う。 ・再評価を行い、決壊に応じた訓練計画の再立案を行う。 ・他の言語聴覚士・関連職種からの情報を共有し連携する ・実習指導者の下、対象児・者とその周囲に対して指導・説明を行う。 ・実習施設の組織や言語聴覚療法部門の管理運営について学ぶ。 【臨床総合実習報告会】 ・症例報告をレポートにまとめ報告会で発表する。				臨床評価実習で指摘された課題を解決し本実習に臨むこと。			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	% ■その他 100%
	基準等						実習前指導・実習中・報告会の出席学修状況、提出物、実習指導者による評価等を総合判定する
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
		大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き					
参考文献		適宜紹介					
履修要件等	実習要件を満たしていること						
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室			オフィスアワー	毎週水曜日 9：30～10：30		